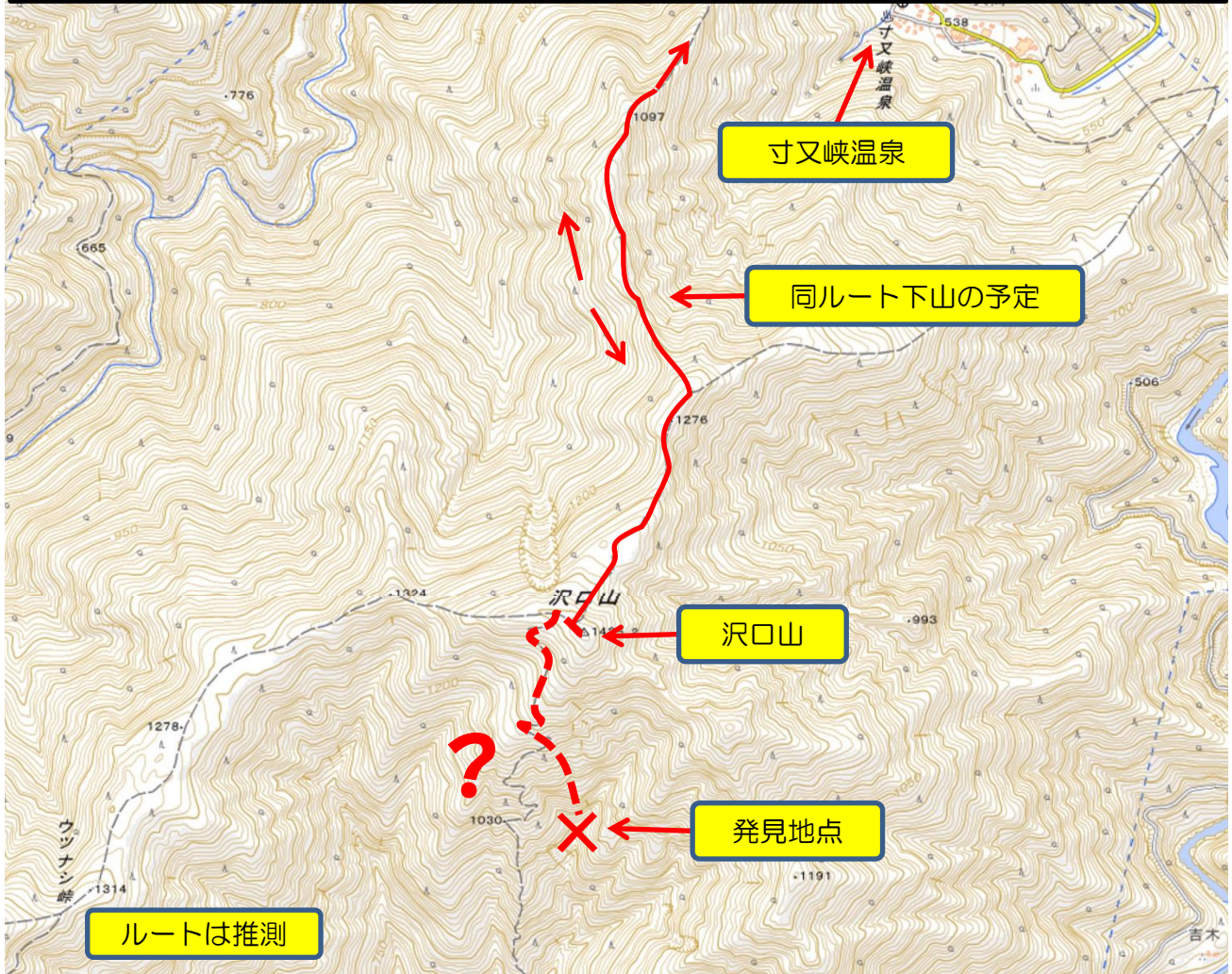


沢口山遭難(2010年11月)

会社員や大学院生の登山未経験の20代の5人グループが下山できなくなり、二晩ビバークの末、無事救助された。



解説

下山開始時刻が14時とある。遅すぎる。下山開始が遅いのは遭難するパーティの特徴。彼らはガスの中、下山を開始するが「20分」ほど下って異変に気がつく。「風景が違う」と。初見でホワイトアウトになり、地形図とコンパスで確認しなければ、迷って当然。それほど広い山頂からの下りは迷いやすい。

「沢を下れば人家に出る」というようなことをなんとなく聞いていたのだろう。彼らは沢に入っていく、急斜面にで立ち往生したらしい。

彼らが幸運だったのは、沢に完全に入り込む前に行き詰ってしまったこと。無理に下らなかったことが命を救った。最後に、これは若者5人が無事生きて帰ってきたのだから、喜ばしいニュースのはずだ。にもかかわらず、報道はいつものことだが刺々しい。山岳遭難になると、とちめたほうが偉いとも思っているのだろうか、人の失敗にもう少し寛容な社会であっていいのではないかと思う。(HP参照)

遭難事例が2010年でまだスマホの地図アプリが無かった時代。とはいえ、ホワイトアウトの中で方向性を決めるのは技術が必要。初心者で地図もコンパスもなく方向性を決めるのは難しい。来た道に戻るすらできない。下山開始後「20分」ほど下って異変に気がつくが道迷いは行動を止めることができない。一方で、報道については、頷くところもある。